

平成18年3月期決算説明会 決算短信補足資料 【連結・単独】

平成18年6月5日(月)
石光商事株式会社
(証券コード:2750 JASDAQ)

目次

- ・ **会社概要**
- ・ **平成18年3月期決算の概況**
- ・ **主要商品の概況(単独)**
- ・ **平成19年3月期 通期の見通し**
- ・ **現状の問題点と中期経営計画**
- ・ **新会社法施行に伴う当社の内部統制システムの構築**

・ 会社概要

代表取締役 社長
森本 茂

2. 沿革



石光商事株式会社

- ◆ 1906年 : 創業者が単身渡米、ロサンゼルスにおいて食料品販売業を創業
- ◆ 1922年 : 対日貿易量の増大にともない本店を神戸に移す
- ◆ 1941年 : 戦争激化により休業。海外資産没収
- ◆ 1951年 : 貿易再開と同時に神戸にて株式会社石光季男商店を設立
- ◆ 1963年 : 石光商事株式会社と改称
- ◆ 1972年 : 東京アライドコーヒーロースターズ(株)設立(東京地区取引先との共同出資)
- ◆ 1973年 : 関西アライドコーヒーロースターズ(株)設立(関西地区取引先との共同出資)
- ◆ 1999年 : 神戸市灘区にて本社新社屋ビルが完成、移転
- ◆ 2002年 : 組織改革 チーム制の導入
店頭市場(現:ジャスダック証券取引所)に上場
- ◆ 2004年 : 人事制度改革、情報システム再構築へ着手
安全な食品の提供(研究開発室・品質保証室の強化)
- ◆ 2005年 : 新人事制度の導入
- ◆ 2006年 : 創業100周年を迎える



3. 石光商事グループ



石光商事株式会社

関西アライドコーヒー
ロースターズ(株)
(神戸)

レギュラーコーヒーの
焙煎・加工・販売
(出資比率 64%)

東京アライドコーヒー
ロースターズ(株)
(東京)

レギュラーコーヒーの
焙煎・加工・販売
(出資比率 39%)

キング珈琲(株)
(札幌)

レギュラーコーヒーの焙煎・
販売及び食品の販売
(出資比率 92%)

ユーエスフーズ(株)
(東京)

コーヒー生豆の小分け販売
(出資比率 100%)

岩屋サービス(株)
(神戸)

運送業
(出資比率 83%)

シーカフェ(株)
(東京)

イタリアレストランの経営
(出資比率 100%)

関西アライドコーヒーロースターズ(株)



キング珈琲(株)



岩屋サービス(株)

(当社物流センター内)



イタリアレストラン“イバル”



東京アライドコーヒーロースターズ(株)



ユーエスフーズ(株)



ピッツェリア“バッコ”



. 平成18年3月期 決算の概況

常務取締役管理部門長兼経営企画室長
久保 潤一

4. 当決算(連結)のポイント

1. 売上高は期初予想を下回るも、前年同期比では増加。
 2. コーヒーの売上高は相場上昇による単価上昇のため増加。
 3. コーヒー生豆相場高騰及び競争激化による利益率低下と、運賃・保管料の増加等コストアップ要因 営業利益が大幅減少。
 4. 持分法利益の減少 経常利益も減少。
 5. 長期為替予約であるクーポンスワップ解約益を特別利益に計上したため、当期純利益は大幅増加。
- (前期末(H17-3)に監査法人の指導により会計処理をヘッジ会計から時価会計に移行、前期末は特別損失にて 831百万円計上)

5. 平成18年3月期決算(連結)の概要

実績と前期比

(百万円)

	16年3月期	17年3月期	18年3月期 期初予想	18年3月期 実績	増減率	
					前期比	予想比
売上高	32,049	34,166	36,459	35,457	3.8%	-2.7%
売上総利益	4,892	4,836	4,971	4,142	-14.3%	-16.7%
営業利益	1,345	1,059	1,079	378	-64.3%	-65.0%
持分法による 投資利益	142	316	235	158	-50.0%	-32.7%
経常利益	1,432	1,356	1,241	695	-48.7%	-44.0%
特別利益	1	3	—	940	24638.9%	—
特別損失	17	834	—	58	-93.0%	—
当期純利益	849	416	796	970	133.0%	21.9%
E P S (円)	101.22	52.07	99.70	121.43	133.2%	21.8%
R O E	13.4%	6.2%	-	13.3%	—	—

6. 平成18年3月期決算 特記事項

クーポンスワップ*解約益(特別利益)

クーポンスワップ解約益921百万円を計上したことにより
当期純利益が大幅増加。*クーポンスワップ・長期為替予約の一種
(前期末は、時価評価損を特別損失にて 831百万円計上。)

解約の理由:主に評価日の直物為替相場により大きく左右される
時価評価損益の変動が業績に与える多大な影響を排除するため。

参考資料 適時開示情報

平成18年4月7日付

「クーポンスワップ解約益の発生および
平成18年3月期(連結・単独)業績予想の修正に関するお知らせ」

減損損失 56百万円 (特別損失)

札幌支店 土地(335.50㎡)
建物(延べ床面積 291.59㎡)
(以上で減損は終了)

7. 品目別売上状況(連結)前期比

実績と前期比

(百万円)

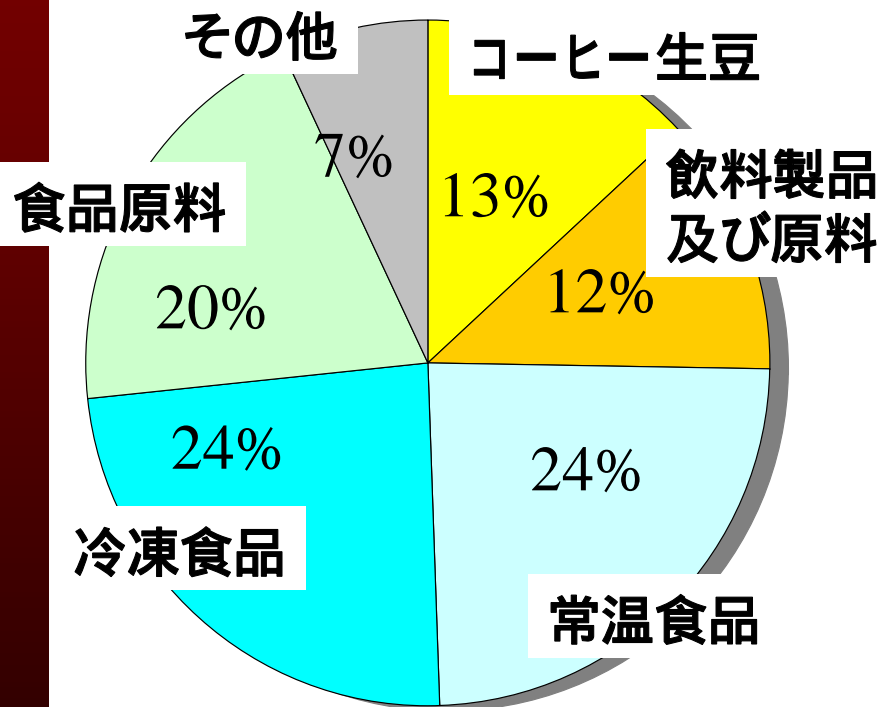
	平成17年3月期				平成18年3月期			
	売上高		前期比		売上高		前期比	
	金額	構成比	金額	増減率	金額	構成比	金額	増減率
コーヒー生豆	3,859	11.3%	56	1.5%	4,614	13.0%	754	19.5%
飲料製品 及び原料	4,028	11.8%	123	3.2%	4,322	12.2%	294	7.3%
常温食品	8,631	25.3%	85	1.0%	8,611	24.3%	19	-0.2%
冷凍食品	7,983	23.4%	1,221	18.1%	8,502	24.0%	519	6.5%
食品原料	6,488	19.0%	363	5.9%	6,987	19.7%	498	7.7%
その他	3,175	9.3%	266	9.2%	2,420	6.8%	755	-23.8%
合計	34,166	100.0%	2,117	6.6%	35,457	100.0%	1,291	3.8%

・その他・・・機械機器(輸出)、繊維製品の減少により大幅減少

8. 品目別売上・売上総利益(連結)

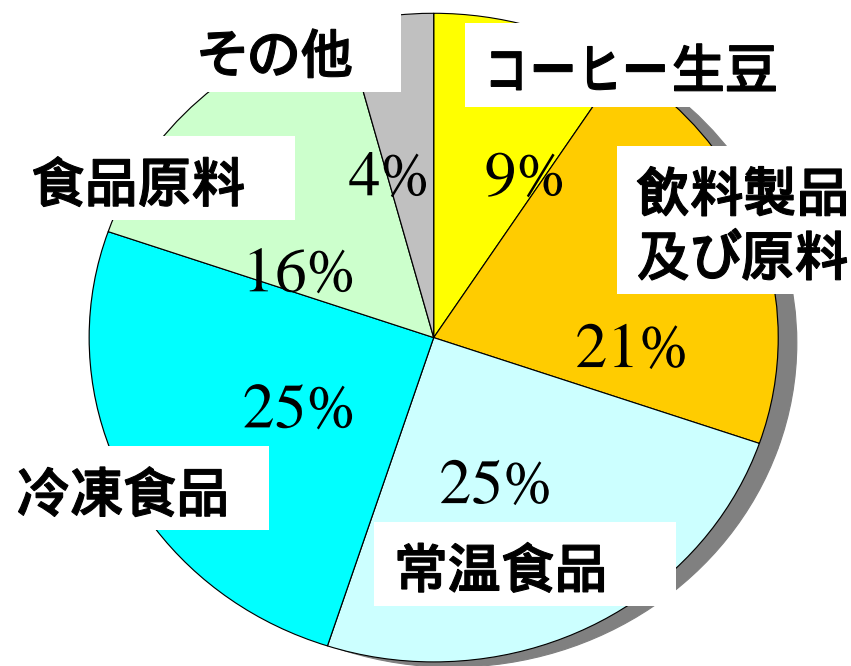
平成18年3月期(連結)

売上高構成比



平成18年3月期(連結)

売上総利益構成比



・飲料製品及び原料、常温・冷凍食品・・・利益率が高い。

9. 連結貸借対照表 概要



石光商事株式会社

(百万円)

科目	H17年3月	H18年3月	増減	科目	H17年3月	H18年3月	増減
流動資産	11,191	11,316	125	流動負債	6,759	7,108	349
現金及び預金	1,791	1,684	107	仕入債務	2,729	2,890	161
売上債権	5,001	5,648	646	借入金	2,260	1,911	349
たな卸資産	3,668	3,664	3	未払金	995	1,071	75
その他	729	318	410	未払法人税等	13	579	566
固定資産	6,084	6,241	157	その他	760	656	104
有形固定資産	2,764	2,665	98	固定負債	3,447	2,506	940
無形固定資産	14	16	1	長期借入金	1,897	1,772	124
投資その他の資産	3,305	3,559	253	その他	1,550	733	816
				負債合計	10,206	9,615	591
				少数株主持分	188	201	12
				資本合計	6,880	7,742	861
				資本金	623	623	0
				資本剰余金	357	357	0
				利益剰余金	5,847	6,657	810
				その他有価証券 評価差額金	57	109	51
				自己株式	4	4	0
資産合計	17,275	17,558	282	負債・資本合計	17,275	17,558	282

・売上債権
 (含む割引手形増減) 増加 122百万円
 ・借入金(短期・長期)の減少
 ・未払法人税等の増加
 (当期利益の増加による)

* 株主資本比率

17/3
39.8%

18/3
44.1%

10. 連結CF計算書 概要



石光商事株式会社

(百万円)

	平成16年3月期	平成17年3月期	平成18年3月期
営業活動によるCF	295	389	499
投資活動によるCF	244	221	2
フリーCF	50	611	502
財務活動によるCF	105	713	636
換算差額	23	10	17
現金及び現金同等物の増減額	78	113	117
現金及び現金同等物の期首残高	1,681	1,603	1,716
現金及び現金同等物の期末残高	1,603	1,716	1,599

仕入債務の増減額	255	83	161
たな卸資産の増減額	49	936	3
手形割引高	967	1,224	700

11. TACRの業績推移

東京アライドコーヒーロースターズ(株)



石光商事株式会社

・持分法投資利益が前期比 50%

(コーヒー相場高騰の影響を価格に転嫁できず、当期純利益が減少)

実績と前年同期比

(百万円)

	平成15年 12月期	平成16年12 月期	平成17年 12月期	対前期 増減率	平成18年12 月期予想	対前期 増減率
売 上 高	7,086	8,638	8,922	3.3%	9,000	0.9%
当 期 純 利 益	402	740	427	-42.2%	356	-16.7%
当社持分比率	38.01%	38.01%	39.64%	1.63%	39.64%	-
当社持分法に よる投資損益	142	266	158	-40.6%	130	-17.8%
持分変動によ る投資損益等	-	50	-	-	-	-
投資損益合計	142	316	158	-50.0%	130	-17.8%

(注) 当社のTACR(東京アライド'コーヒーロースターズ'(株))に対する平成18年3月31日の持分比率は39.64%です。

12. 単体実績と連単倍率



石光商事株式会社

(単位:百万円,倍)

	平成17年3月期			平成18年3月期		
	連結	単体	連単倍率	連結	単体	連単倍率
売上高	34,166	33,686	1.0	35,457	35,041	1.0
売上総利益	4,836	4,423	1.1	4,142	3,698	1.1
営業利益	1,059	964	1.1	378	245	1.5
経常利益	1,356	1,026	1.3	695	485	1.4
当期純利益	416	115	3.6	970	816	1.2
E P S(円)	52.07	14.42		121.43	102.14	
1株当たり 配当額(円)	-	20.00		-	25.00	
配当性向	-	138.7%		-	24.5%	

* 今期 1株当たり配当額 普通配当 20円
 (25円)の内訳・・・ 記念配当 5円(創業100周年記念)

・ 主要商品の概況(単独)

売上高の連単倍率は1.0倍でありますので、
主要の商品の概況につきましては単独で、
ご説明申し上げます。

常務取締役管理部門長兼経営企画室長
久保 潤一

13. コーヒー生豆・RC・IC・紅茶の販売状況(単独)

- ・RC(レギュラーコーヒー)・・・OEM(袋入り)商品減少分をコーヒーバッグがカバー
- ・IC(インスタントコーヒー)・・・輸入製品の減少
- ・茶類・・・原料用緑茶等の増加

実績と前年同期比

(百万円)

	平成17年3月期			平成18年3月期		
	売上高	前年同期比		売上高	前年同期比	
		金額、数量	増減率		金額、数量	増減率
コーヒー生豆	3,789	72	2.0%	4,567	778	20.5%
(コーヒー生豆数量)	293千袋	5千袋	-2.0%	302千袋	+8千袋	3.0%
RC	1,197	109	-8.4%	1,468	270	22.6%
IC	884	42	-4.6%	855	28	-3.2%
紅茶他茶類等	1,467	259	21.4%	1,519	52	3.5%

* コーヒー生豆の販売数量には、子会社への有償支給分を含んでおります。

14. イタリア食材の販売状況(単独)

・取引先であるイタリアパスタメーカー倒産の影響によりパスタ大幅減少
 ー昨年秋から再生 下期から回復(18-3中・・・158百万 前期比 65百万)

輸入パスタ・オリーブオイルの実績と前年同期比

(百万円)

	平成17年3月期			平成18年3月期		
	売上高	前年同期比		売上高	前年同期比	
		金額	増減率		金額	増減率
輸入パスタ	366	148	-28.8%	381	14	4.1%
オリーブオイル	309	5	-1.8%	356	46	15.1%
生ハム・チーズ	86	5	7.3%	91	4	5.6%
合計	762	148	-16.3%	829	66	8.7%

15. 冷凍水産加工品の販売状況(単独)



・タコ類 メーカー向け販売好調

実績と前年同期比

(百万円)

	平成17年3月期			平成18年3月期		
	売上高	前年同期比		売上高	前年同期比	
		金額	増減率		金額	増減率
エビ類	2,306	432	23.1%	2,364	58	2.5%
タコ類	704	167	31.2%	902	197	28.1%
その他水産品	295	27	11.1%	233	61	-20.9%
合計	3,306	629	23.5%	3,500	194	5.9%

16. 冷凍調理加工品の販売状況(単独)

- ・鶏唐揚げ等既存商品の伸長
- ・新商品の積極的開発によるアイテム数の増加
- ・小売・スーパー等販路拡大

冷凍調理加工品の実績

(百万円)

	平成17年3月期			平成18年3月期		
	売上高	前年同期比		売上高	前年同期比	
		金額	増減率		金額	増減率
鶏唐揚げ	170	75	80.2%	274	103	60.8%
白身魚フライ	84	20	31.9%	96	12	14.8%
お好み焼	20	20	-	76	56	273.2%
フランクソーセージ	11	11	-	38	26	242.7%
ロールキャベツ	31	19	153.4%	37	5	18.9%
ポークカツ類	23	5	29.2%	22	0	-2.9%
八幡巻	34	21	166.1%	19	14	-43.7%
その他	152	103	208.2%	246	93	61.0%
合計	528	277	110.1%	811	282	53.5%

・平成19年3月期 業績見通し

常務取締役管理部門長兼経営企画室長
久保 潤一

17. H19年3月期見通しの前提

(売上)

1. コーヒー・飲料・・・コーヒー相場高騰の影響による単価上昇も落ち着く。
2. 冷凍食品・・・輸入水産加工品・輸入調理加工品の増加。
3. その他・・・本業強化による繊維製品取り扱い廃止と機械・機器輸出減により減少。

(利益)

4. コーヒー相場の影響によるコスト上昇に一服感。
価格転嫁もすすみ、利益率回復へ。全体としても利益率回復。
5. 当期純利益の減少は、H18-3期の特別利益の計上によるもの。
(特別利益940百万円(うちクーポンスワップ解約益921百万円))

18. 業績予想(連結 品目別)



冷凍食品・輸入水産加工品・輸入調理加工品が増収の予想
 その他・・・繊維製品の取り扱いの廃止・機械機器の輸出減少

(百万円)

	平成18年3月期実績				平成19年3月期予想			
	売上高		前期比		売上高		前期比	
	金額	構成比	金額	増減率	金額	構成比	金額	増減率
コーヒー生豆	4,614	13.0%	754	19.5%	4,638	12.6%	24	0.5%
飲料製品 及び原料	4,322	12.2%	294	7.3%	4,484	12.2%	162	3.8%
常温食品	8,611	24.3%	19	-0.2%	8,981	24.5%	370	4.3%
冷凍食品	8,502	24.0%	519	6.5%	9,742	26.5%	1,241	14.6%
食品原料	6,987	19.7%	498	7.7%	7,362	20.1%	374	5.4%
その他	2,420	6.8%	755	-23.8%	1,497	4.1%	923	-38.1%
合計	35,457	100.0%	1,291	3.8%	36,707	100.0%	1,249	3.5%

19. 業績予想(連結)



・コーヒー相場の影響によるコスト上昇が一段落。 価格転嫁もすすみ、利益率回復へ。

(百万円)

	平成18年3月期			平成19年3月期		
	実績	前期比		予想	前期比	
		金額	増減率		金額	増減率
売上高	35,457	1,291	3.8%	36,707	1,249	3.5%
売上総利益	4,142	694	-14.3%	4,732	589	14.2%
営業利益	378	682	-64.3%	905	527	139.5%
持分法による 投資利益	158	159	-50.0%	130	28	-17.8%
経常利益	695	661	-48.7%	995	300	43.2%
当期純利益	970	554	133.0%	609	361	-37.3%
E P S(円)	121.43	69.36	133.2%	76.24	45.19	-37.2%

H18-3期配当実績 25円(普通配当20円
記念配当5円)

H19-3期 配当予想 20円

20. NYコーヒー価格の推移

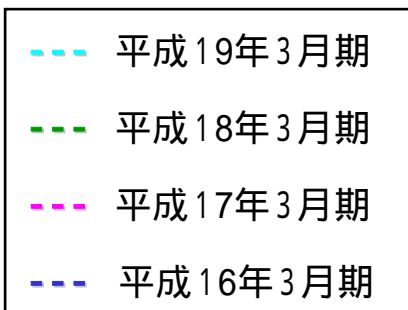


石光商事株式会社

ニューヨーク先物期近銘柄 終値 月平均推移(セント/ポンド)

(セント/ポンド)

(1ポンド 0.453Kg)



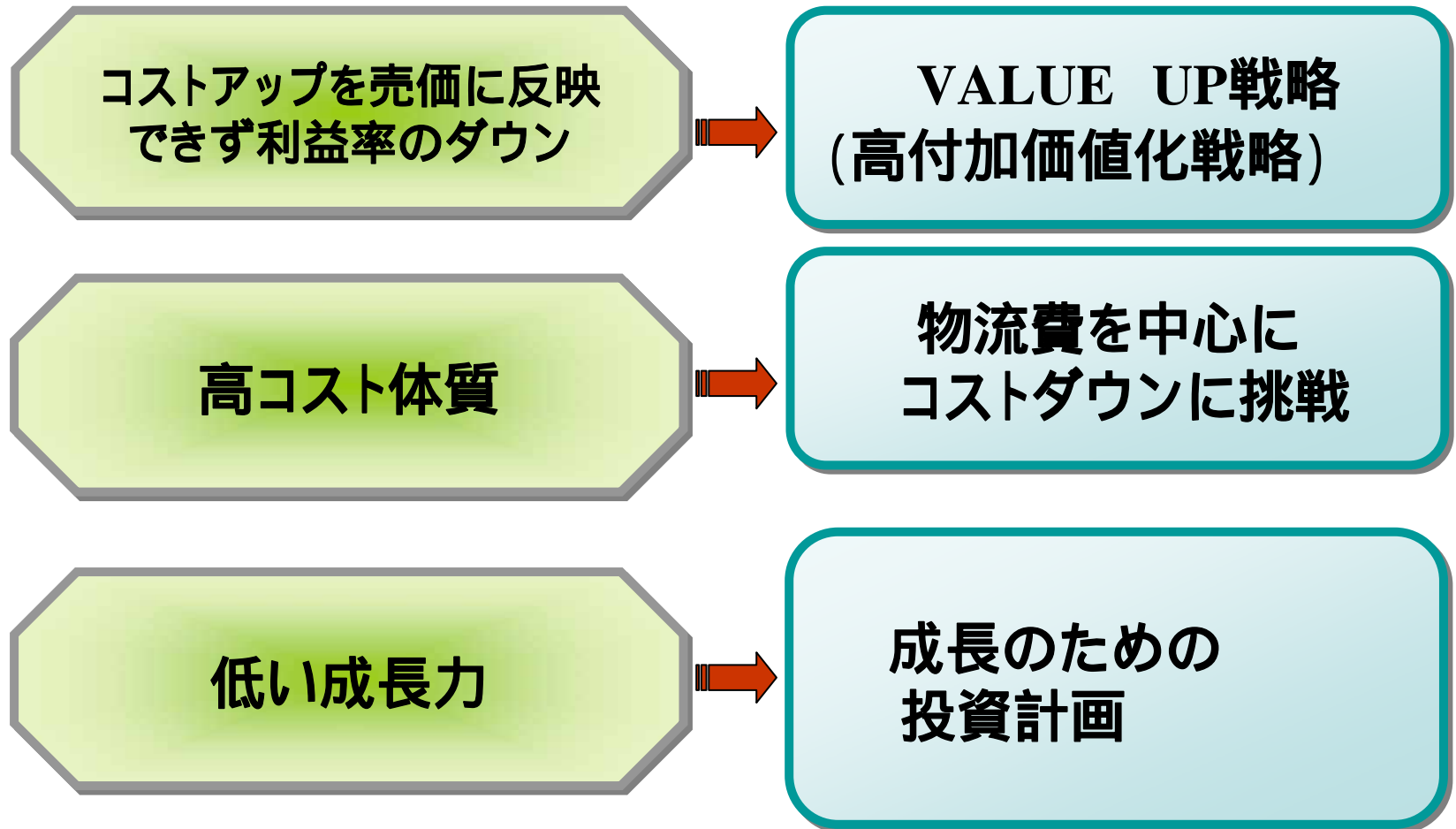
(出所)ニューヨーク商品取引所 先物期近銘柄

H16/4 ~ H17/3	
H16/4月	70.23
5月	72.60
6月	77.85
7月	69.42
8月	67.78
9月	75.90
上期平均	72.26
10月	75.86
11月	84.25
12月	99.01
1月	101.53
2月	113.85
3月	127.83
期中平均	100.51
H17/4 ~ H18/3	
H17/4月	120.81
5月	119.52
6月	112.33
7月	101.53
8月	99.64
9月	91.64
上期平均	107.54
10月	99.72
11月	100.24
12月	97.93
1月	119.33
2月	111.91
3月	106.51
期中平均	106.68
H18/4 ~ H18/5	
H18/4月	108.17
5月	102.67

・現状の問題点と中期経営計画

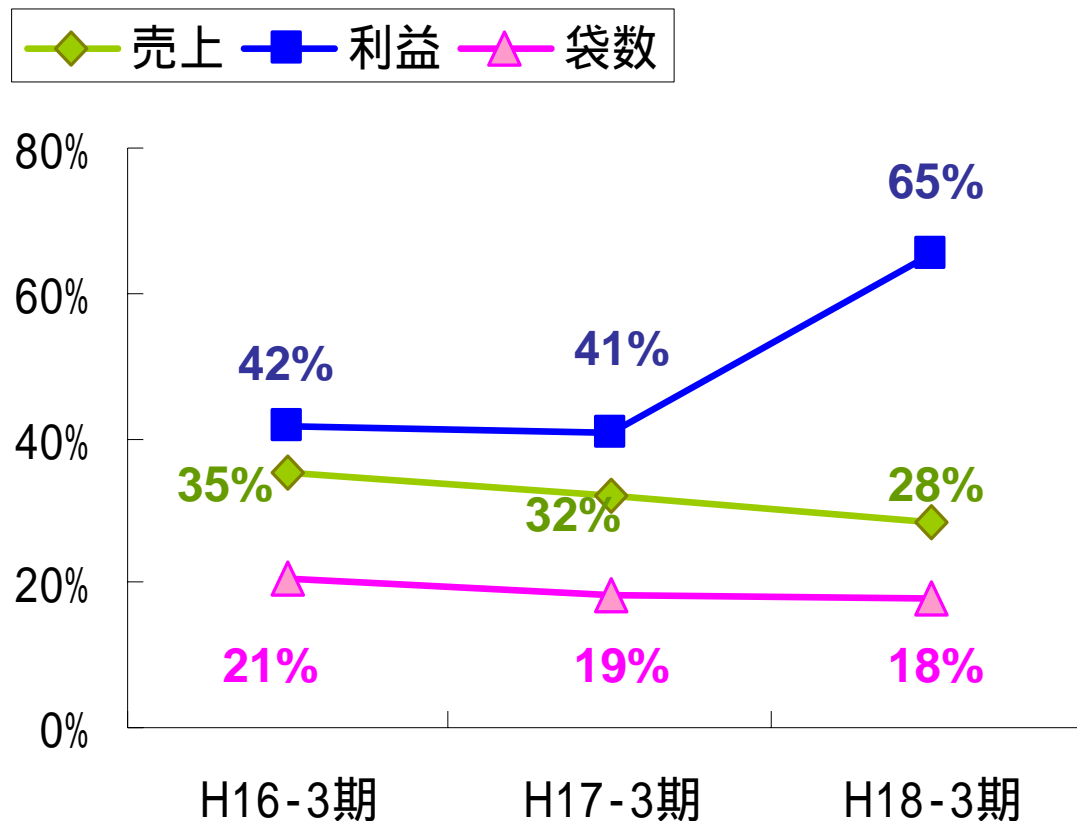
代表取締役 社長
森本 茂

21. 現状の問題点と対策



22-1. コーヒー原料の高付加価値化

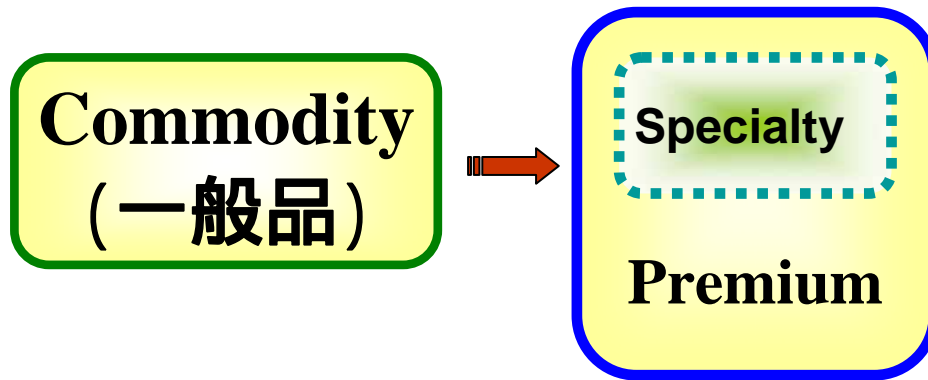
コーヒー生豆における 付加価値商品 (Premium) の構成比率推移



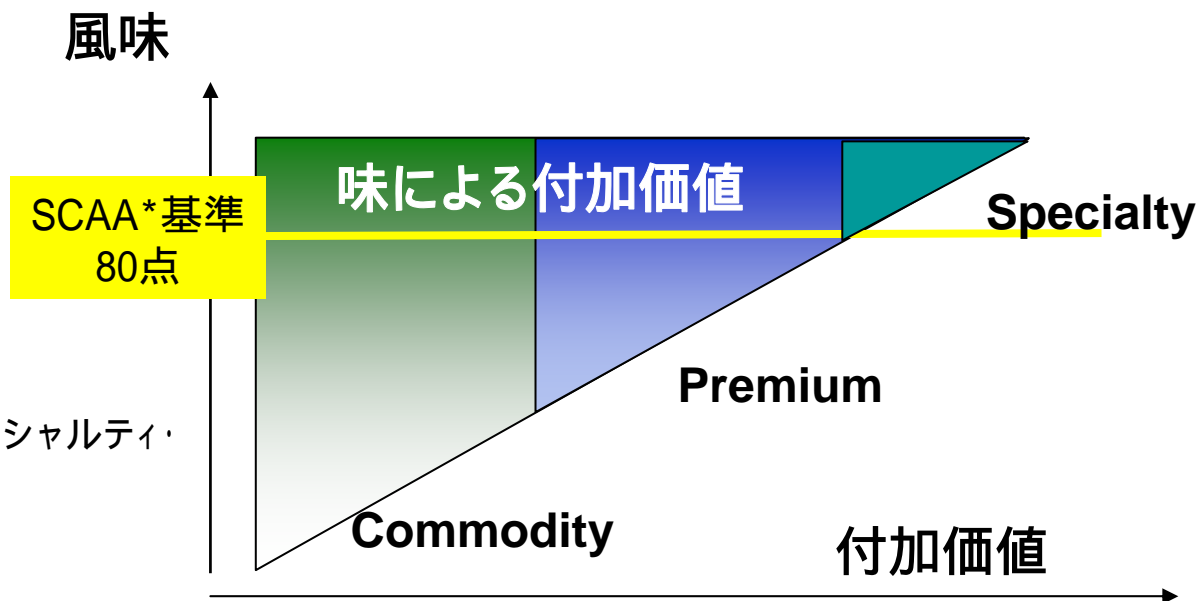
利益率高い付加価値商品の比率を上げ、安定的な利益確保へ。

H18-3期・・・
コーヒー相場高騰の影響でコーヒー原料全体の利益率が低下。特にCommodity (一般品) の受けた影響が大きい。

22-2. コーヒー原料の高付加価値化

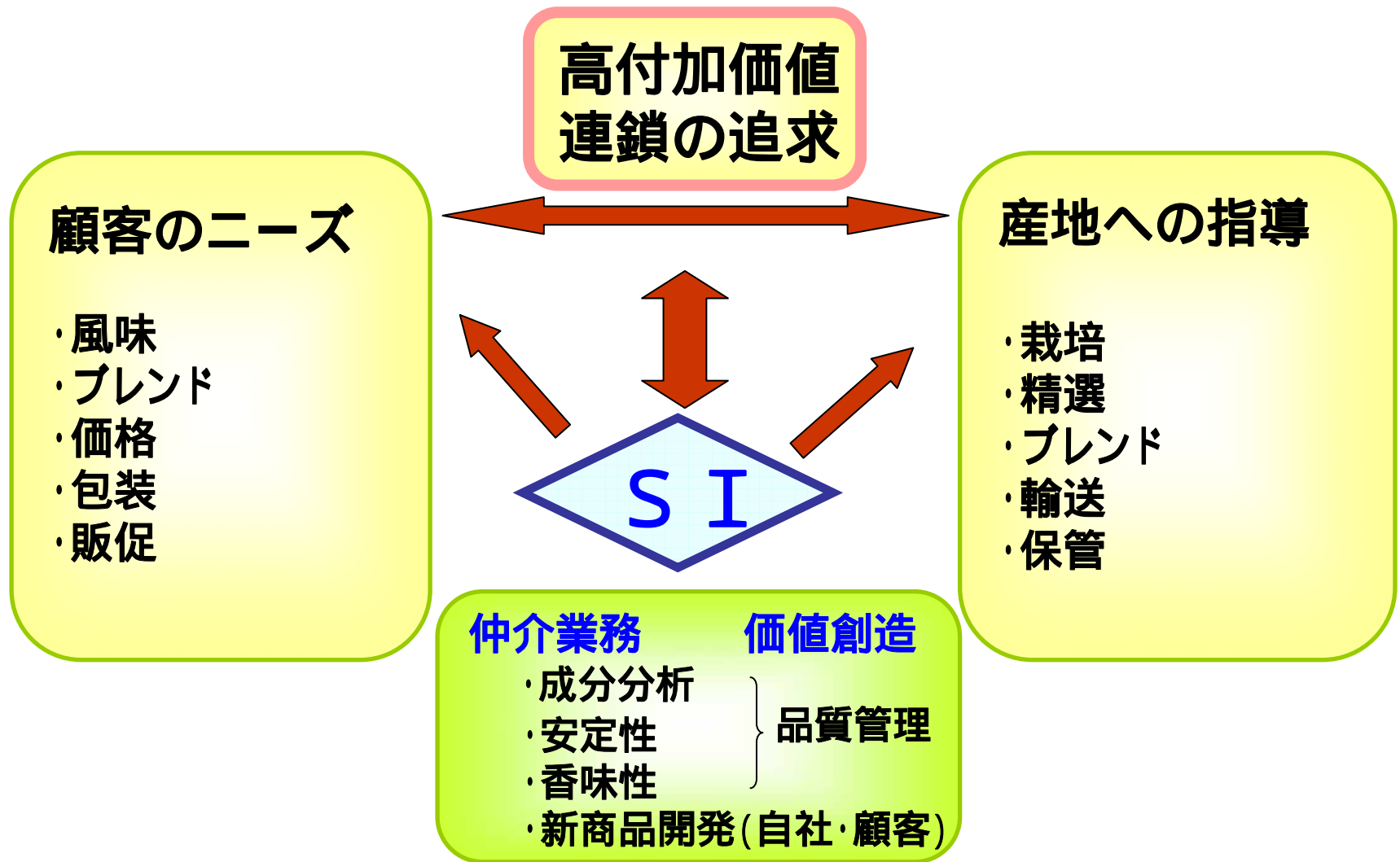


- ・オークションコーヒー(社外での客観性のある審査を経て選ばれたもの)
- ・+ の様々な価値を付加した商品。(農園、地域、栽培、品種、加工、認証、輸送・保管、等)



*SCAA・・・
(アメリカ・スペシャルティ・
コーヒー協会)

22-3. コーヒー原料の高付加価値化



23-1. 製品・飲料原料の高付加価値化

レギュラーコーヒー

Specialty

… オークションコーヒーを原料に使用

希少性

「Q Auction」

コーヒーの品質向上と生産者の生活向上を目的として設立されたNPO団体のCQIが主催する「Q AUCTION」という品評会。出展ロットは、国内審査員による審査、更に国際審査員によるSCAA (アメリカ・スペシャルティ・コーヒー協会) のカップング評価で80点以上をクリアーした、「優秀作品」のみの仕様。



Q Auction

「Rain Forest」

生産者および企業、消費者の改善により、熱帯雨林の生態系やそれに携わる人々や野生生物を保護することを使命としたNPO (非営利団体) の認証を受けたもの。

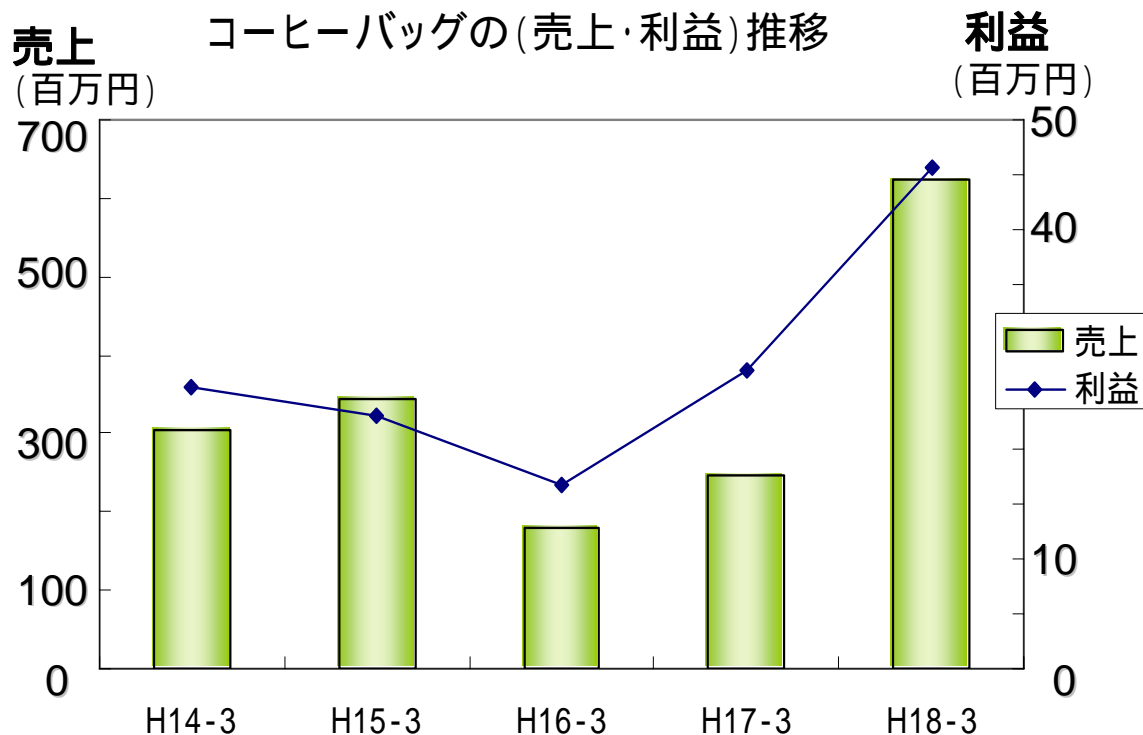


Rain Forest

23-2. 製品・飲料原料の高付加価値化

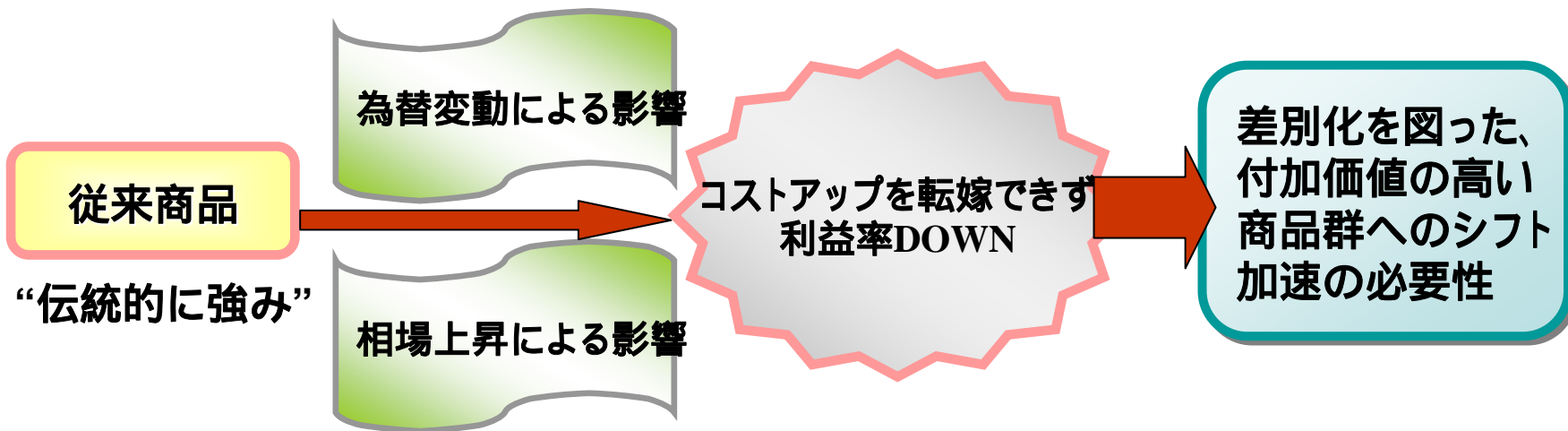
Personal Use

… Coffee Bag 原料少 高付加価値



- ・Coffee Bag伸長による利益率の改善
- ・原料少ない 生豆相場の影響を受けにくい商品

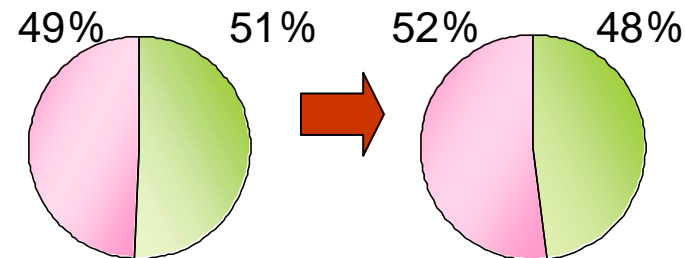
24-1. 食品の高付加価値化



新・旧商品群の割合(売上高)

H17-3期

H18-3期



新商品群・・・調理加工品・水産加工品、野菜類

旧商品群・・・上記以外(フルーツ・野菜缶詰、メーカー商品等)

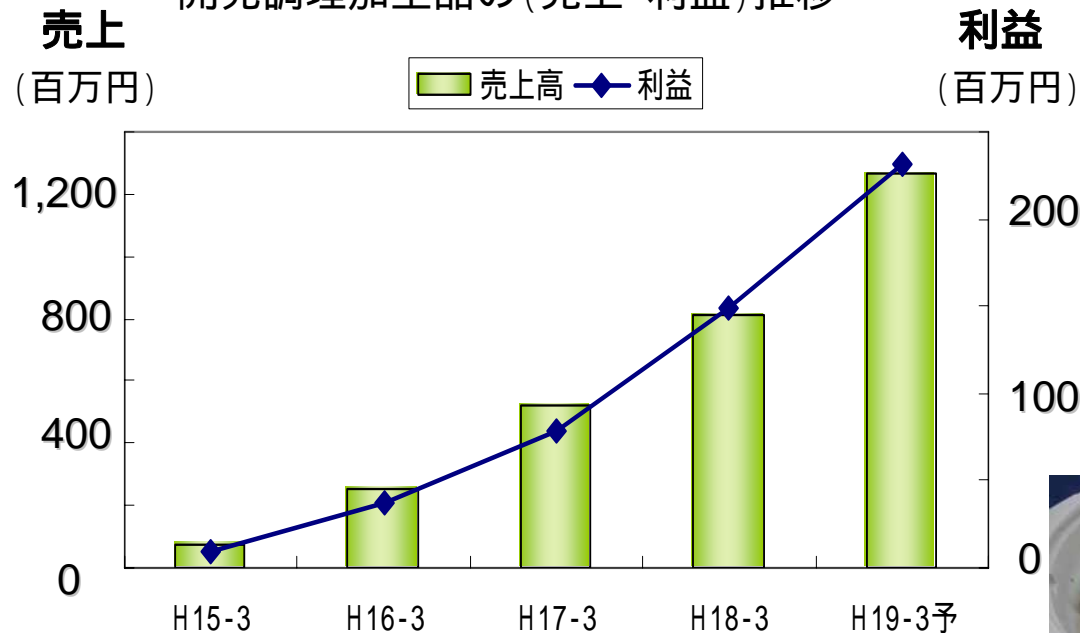
オリジナル性の高い開発商品群の比率をあげることにより利益率の改善

24-2. 食品の高付加価値化

付加価値商品

・開発調理加工品

開発調理加工品の(売上・利益)推移



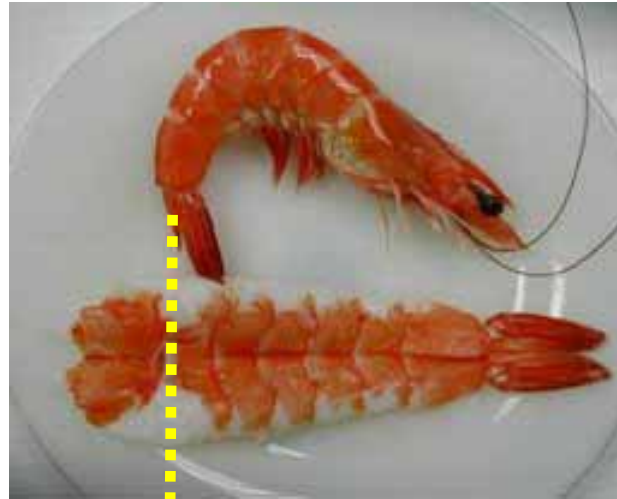
外食・中食・量販などへ提案

【提案例】

24-3. 食品の高付加価値化

付加価値商品

・水産加工品 原料等

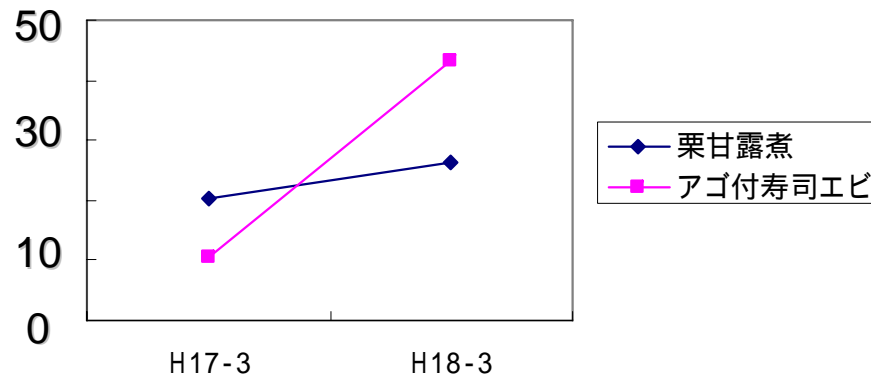


アゴ肉つき寿司エビ

現地での加工度を上げ
付加価値を高く

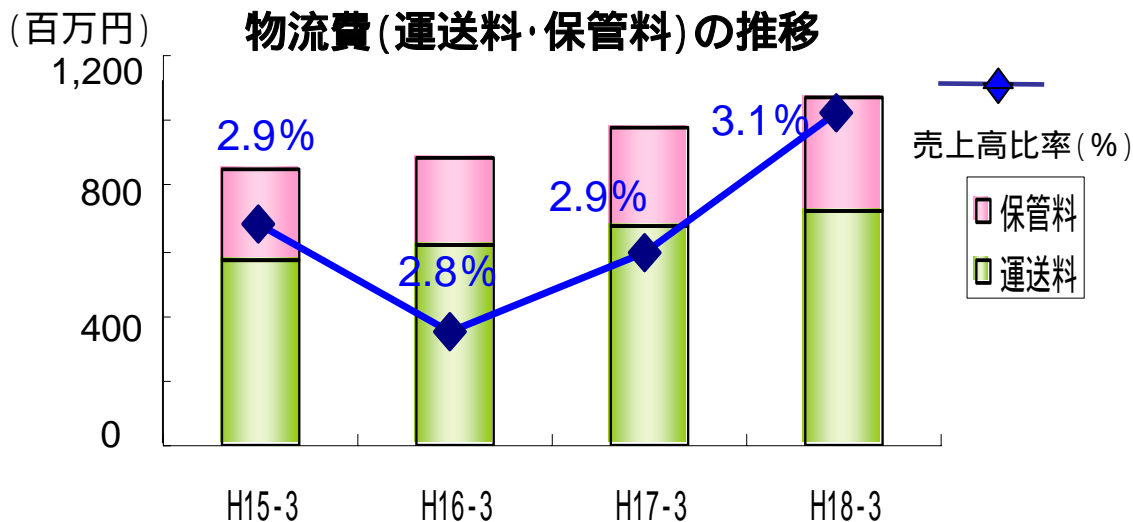
アゴ付寿司エビ 栗甘露煮 利益推移

(百万円)



利益率の高い
付加価値商品を伸ばし、
利益確保へ。

25. コスト削減



廃棄・評価損のロス

在庫過多による金利・倉庫費用のロス

配送コスト 配送NETWORKの最適化

在庫管理の徹底による精度UP

販売機会損失の最少化

余剰在庫削減

保管料低減

在庫ロス抑制

26. 成長のための投資

研究開発投資 ……研究開発室 分析機器 増設

商品開発投資 ……食品開発・品質管理増員

システム投資 ……コンピュータ新システムの導入 H19年4月より

生産設備投資 ……KACR コーヒーバッグ包装機
(関西アライドコーヒーロースターズ株)

海外投資 ……海外合併事業
丹東東白食品有限公司 / 紫山丸善果菜加工有限公司

27-1 . 中期経営計画



石光商事株式会社

2007年3月期 ~ 2010年3月期中期経営計画

最終年度2010年
売上高 410億円
経常利益 14億円

4つの重要施策

- ・マーチャンダイジング機能の充実・強化
- ・コーヒーの価値提案
- ・研究開発室の拡充
- ・海外事業の拡大

2つの課題

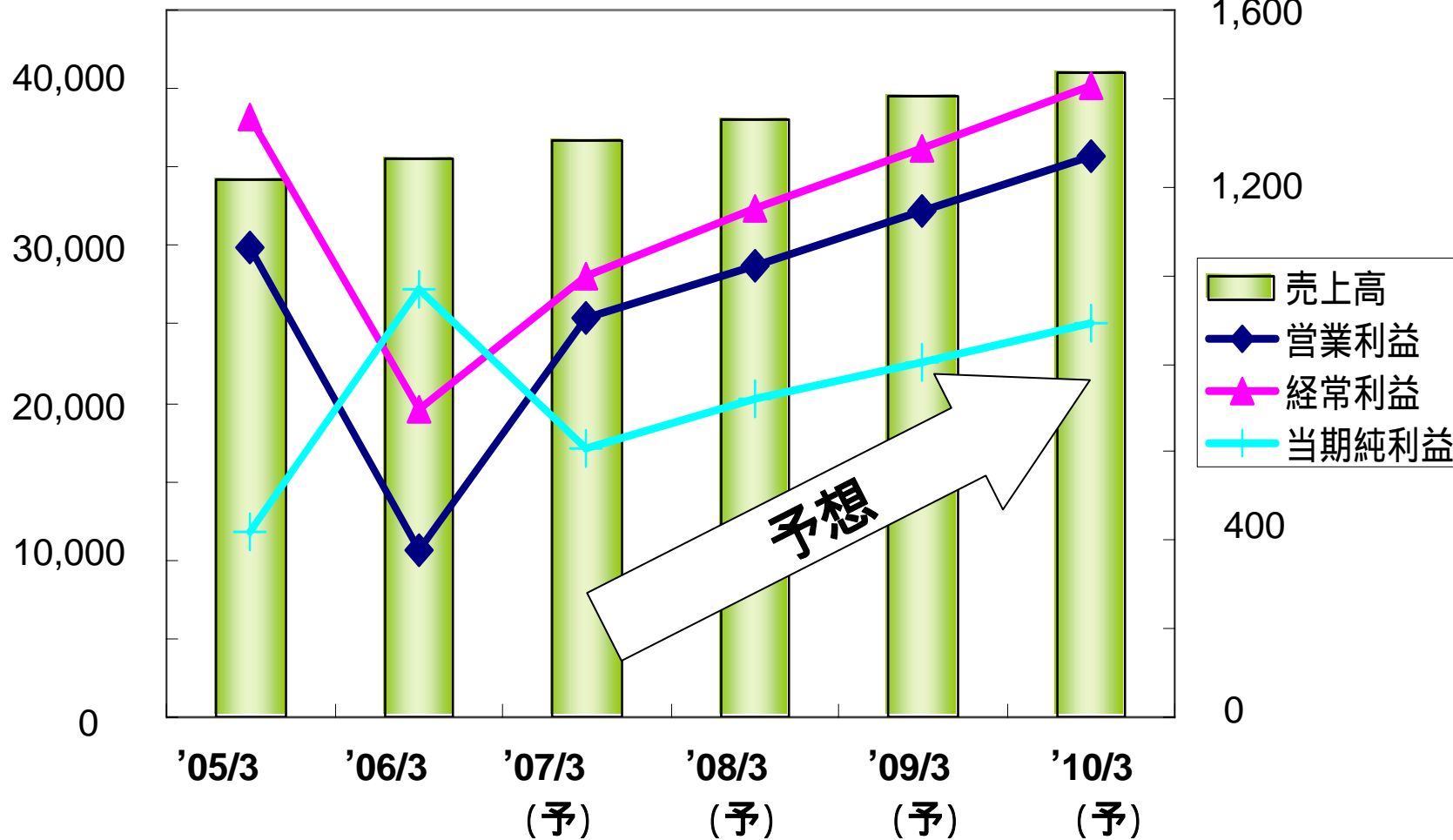
- ・総コストの削減
- ・人財の確保

	H19年(2007年)3月期			H20年(2008年)3月期			H21年(2009年)3月期			H22年(2010年)3月期		
	金額	前期比		金額	前期比		金額	前期比		金額	前期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	36,707	1,249	3.5%	38,030	1,322	3.6%	39,510	1,480	3.9%	41,030	1,520	3.8%
売上総利益	4,732	589	14.2%	4,890	157	3.3%	5,100	210	4.3%	5,310	210	4.1%
営業利益	905	527	139.5%	1,020	114	12.6%	1,140	120	11.8%	1,260	120	10.5%
経常利益	995	300	43.2%	1,150	154	15.5%	1,280	130	11.3%	1,420	140	10.9%
当期純利益	609	361	-37.3%	710	100	16.6%	800	90	12.7%	880	80	10.0%
E P S (円)	76.24	45.19	-37.2%	88.90	12.66	16.6%	100.10	11.20	12.6%	110.10	10.00	10.0%

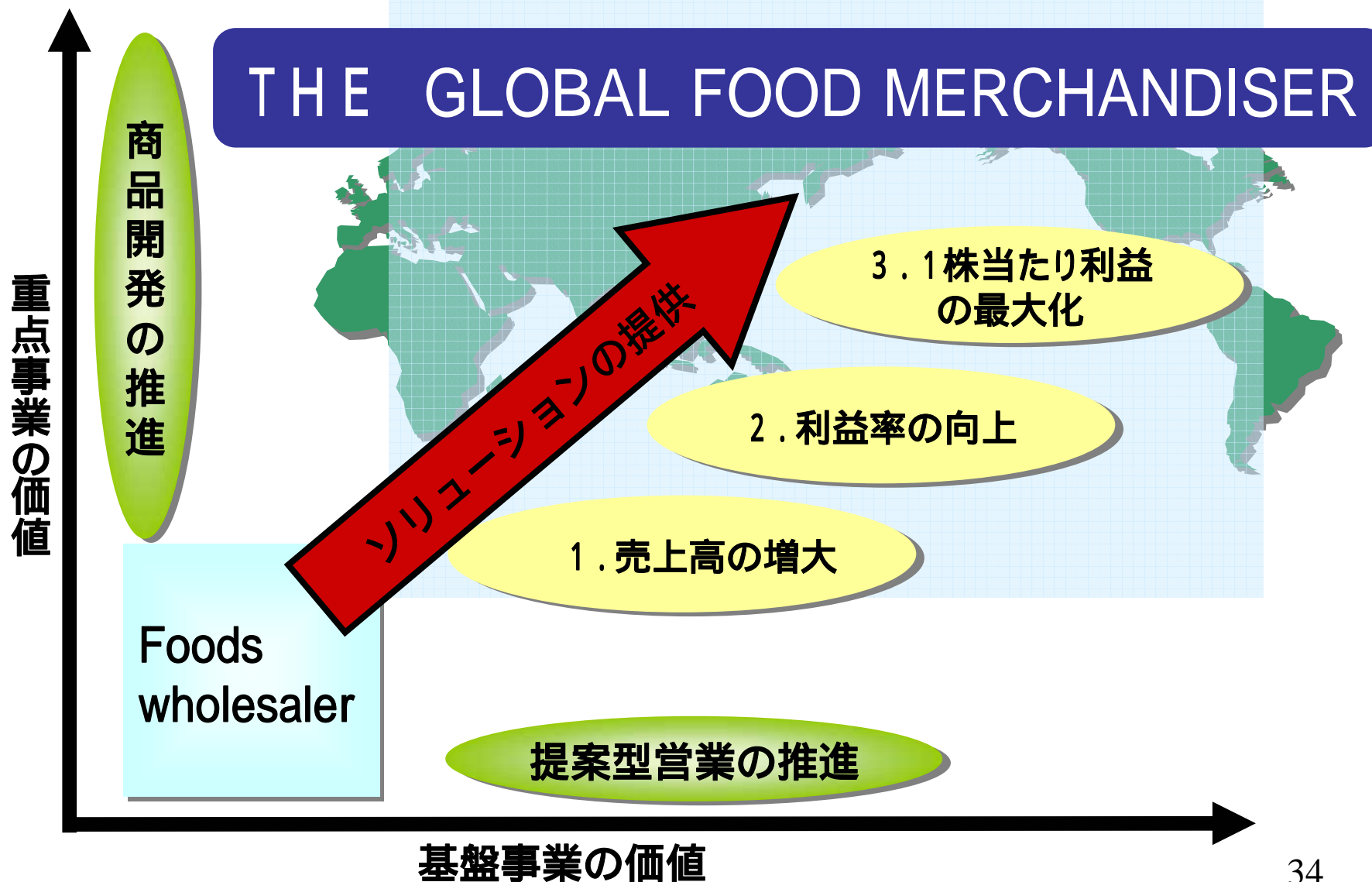
27-2. 数值目標(推移)

売上高
(百万円)

利益
(百万円)



28. 「企業価値」最大化へ向けて



・新会社法施行に伴う当社の 内部統制システムの構築

経営企画室 参事
前田 繁幸

29. 取締役会の決議事項

決議日：平成18年5月12日(金)

決議事項：会社法第362条5項に基づく当社の「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして法務省令で定める体制の整備」(以下、「内部統制システム」と総称する。)に関する決定の件

30. 決議事項の概要



石光商事株式会社

本決議は、会社法第362条5項に基づき、代表取締役により具体的に実行されるべき当社の内部統制システムの構築において、代表取締役が遵守すべき基本方針を明らかにするとともに、会社法施行規則第100条の定める当社の内部統制システムの体制整備に必要とされる各条項に関する大綱を以下の通り定めるものである。本決議に基づく内部統制システムの構築は、可及的速やかに実行すべきものとし、かつ、内部統制システムについての不断の見直しによってその改善を図り、もって、効率的で適法な企業体制を作ることとする。

31-1. 決議内容(1)

1. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

内部情報等の管理に関する規程、文書保存規程、業務分掌規程等の社内規程に則り、適切な保存及び管理を行い、必要に応じて運用状況の検証、各規程等の見直しを行う。

2. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

毎月次、業績の進捗状況及びデリバティブリスク管理規程に定めた取引について、取締役会への報告を行うこととする。

社長直轄部署である内部監査室が内部監査規程に基づき内部監査を実施し、作成された監査報告書及び監査報告書で指摘された事項についての回答書は部門長・部店長を経て社長席に提出され検証されるものとする。

内部監査室の存在意義を全社員に周知徹底し、損失の危険を発見した場合には、直ちに内部監査室に報告するよう指導する。

網羅的全社的なリスク管理のため、今後可及的速やかに「リスク管理規程」を整備し取締役会で制定する。

31-2. 決議内容(2)

3. 取締役の職務の執行が効率的に行われていることを確保するための体制

経営計画のマネジメントについては、毎年策定の年度計画と中期経営計画に基づき各業務執行ラインにおいて目標達成のために活動することとする。また、年度予算の執行状況を毎月取締役会において報告し経営目標の進捗状況を検証する。

業務執行のマネジメントについては、取締役会規程に定められている事項及びその付議基準に該当する事項についてはすべて取締役会に付議することを遵守し、その際には経営判断の原則に基づき議題に関する十分な資料が全役員に配布される体制をとるものとする。

日常の職務執行に際しては、業務分掌規程、職務権限規程に基づき権限の委譲が行われ、各レベルの責任者が意思決定ルールに則り業務を遂行することとする。

4. 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

全社員に法令・定款の遵守を徹底するため、今後可及的速やかに「コンプライアンス規程」を取締役会で制定するとともに、万一違反行為を発見した場合の報告体制として内部通報制度を構築する。

管理部門長をコンプライアンス責任役員とし、各部門・部店にコンプライアンス責任者を置き、全社員に対して適切な研修体制を構築し、繰り返しコンプライアンス遵守体制の周知徹底を図る。

31-3. 決議内容(3)

5. 当社並びに子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

関係会社管理規程に基づき、経営企画室長が関係部門長、部店長及び内部監査室と連携協議の上、子会社及び関連会社の業務の適正が確保される為の体制を構築する。
内部監査室は、子会社に対して年1回以上実地監査を行い、監査報告書は社長席に提出され、検証されることとする。
子会社に対して、コンプライアンス規程の整備制定とその全社員に対するコンプライアンス遵守の研修教育を求め、グループとしてのコンプライアンス体制の確立を目指す。

6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を求めた場合における当該使用人に関する事項

現在のところ、当社の規模・状況を勘案し専任の監査役スタッフを配置していないが、業務分掌規程に基づき総務人事チームが監査役会の庶務事項を担当している。
さらに監査役からその職務を補助すべき使用人を求められた場合には、監査役会と協議の上、総務人事・経理ほか管理部門の各チーム及び内部監査室要員を充てることとする。

7. 監査役の職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役の職務を補助すべき使用人の任命については、監査役会の同意を必要とするものとし当該使用人の当該業務についての人事評価については、監査役・監査役会が行うものとする。

31-4 . 決議内容 (4)



石光商事株式会社

8 . 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他監査役への報告に関する体制

取締役及び使用人は、監査役会の定めるところに従い、各監査役の要請に応じて必要な報告及び情報提供を行うこととする。

監査役は、取締役会のほか重要な会議・委員会に出席し、また出席しない場合には、付議事項についての説明を受け関係資料を閲覧することができる。

9 . 監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

内部監査室は、監査役と緊密な連携を保ち、定期的に内部監査結果の報告を行う等、監査役監査が効率的・実効的に遂行されるため協力することとする。

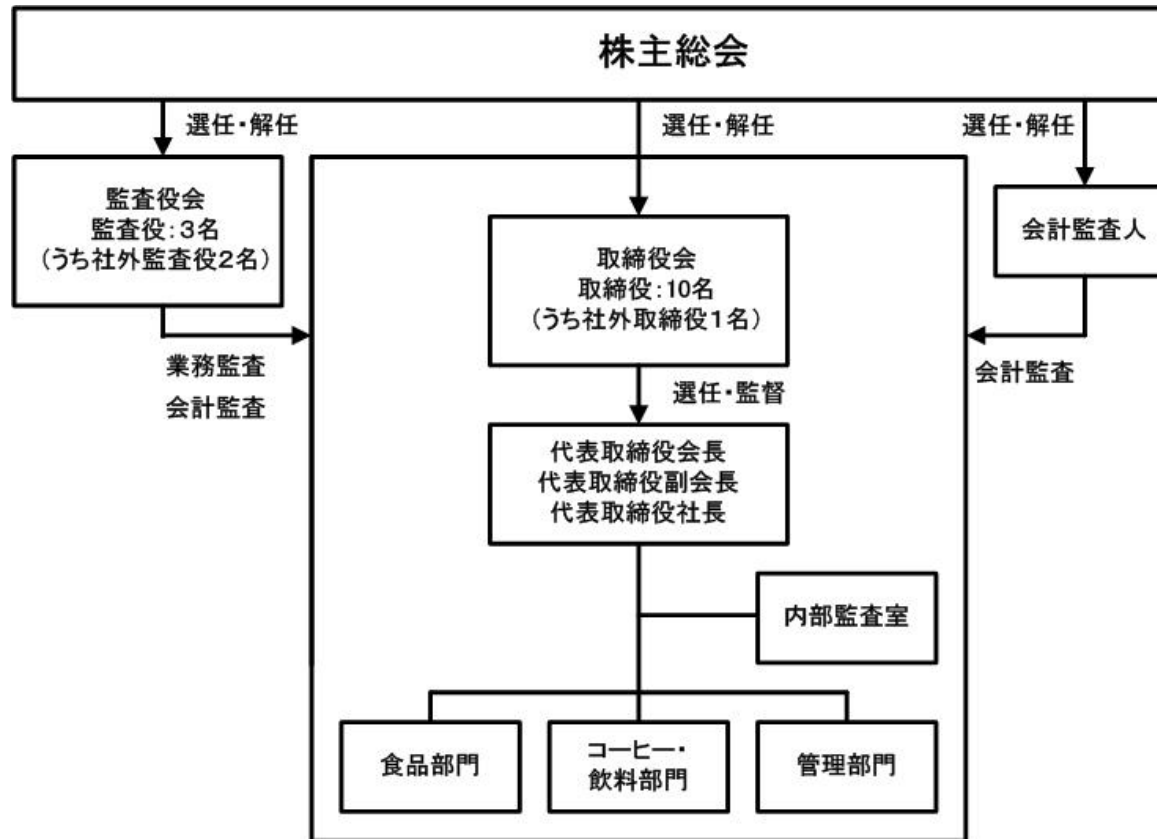
代表取締役は、監査役・監査役会の意向を尊重し監査役及び監査役会と随時会合をもち、経営方針、会社に対処すべき課題、会社を取り巻くリスクのほか、監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要課題等について意見交換し、相互認識と信頼関係を深めるよう努めるものとする。

32. 模式図及び役員名簿



石光商事株式会社

模式図



役員名簿

役職	氏名
代表取締役 会長	石光 輝男
代表取締役 副会長	駒澤 啓之
代表取締役 社長	森本 茂
専務取締役 食品部門長	中西 繁
専務取締役 コーヒー・飲料 部門長	草場 鉄郎
常務取締役 管理部門長 兼経営企画室長	久保 潤一
取締役 福岡支店長	内田 十司夫
取締役 名古屋支店長	北川 誠
取締役	影山 寿一
取締役	市橋 理幸
常勤監査役	入江 和義
監査役	植松 尚三
監査役	樋口 進二

予測に関する注意事項

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。

本資料は現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

いかなる理由によっても、当社に許可なく資料を複製・配布することを禁じます。

本日は、ありがとうございました。
今後とも、ご支援・ご理解を賜りますよう、
宜しくお願い申し上げます。

石 光 商 事 株 式 会 社

経営企画室 久保・前田

TEL : 078-861-7828

FAX : 078-882-1007

URL : <http://www.ishimitsu.co.jp/>

MAIL: ir@ishimitsu.co.jp



石光商事株式会社
S. ISHIMITSU & CO., LTD.